

福童内畑遺跡

—福岡県小郡市福童所在遺跡の調査報告—

小郡市文化財調査報告書 第356集

2023

小郡市教育委員会

福童内畑遺跡

—福岡県小郡市福童所在遺跡の調査報告—

小郡市文化財調査報告書 第356集

2023

小郡市教育委員会

序文

本書は、小郡市福童地内において計画された宅地造成に先立って、小郡市教育委員会が令和3・4年度に実施した埋蔵文化財発掘調査の報告書です。

調査地は、小郡市の中央を南北に流れる宝満川の右岸、小郡市福童の大中臣神社隣接地に所在します。福童では、これまでに福童町遺跡や福童東内畑遺跡、福童山の上遺跡などの発掘調査が行われ、弥生時代から近世にかけての遺構や遺物が確認されています。

今回の調査では、弥生時代から古墳時代にかけての集落跡が確認され、福童町遺跡の南側にも集落が営まれていることがわかりました。

埋蔵文化財は、地域の歴史を探るうえで欠かすことのできない貴重な遺産です。本書が文化財に対するご理解、さらには教育及び学術研究の一助となれば幸いです。

最後になりましたが、本書を刊行するにあたってご協力いただきました工事関係者各位と発掘調査に従事していただいた方々、地元西福童区、東福童区のみなさまには多大なご協力を賜りました。記して感謝申し上げます。

令和4年3月31日
小郡市教育委員会
教育長 秋永 晃生

例言

1. 本書は、小郡市福童に所在する福童内畑遺跡地内で計画された宅地造成に伴い、小郡市教育委員会が令和3・4年度に実施した発掘調査の記録である。
2. 福童内畑遺跡の発掘調査は、小郡市福童地内の開発申請に伴い、小郡市福童字東内畑562-2において遺構を確認し、道路部分165㎡の調査を実施した。
3. 遺構の実測については、龍孝明が行なった。
4. 遺構の写真は龍が、遺物写真は有限会社システム・レコ、一部を龍が撮影した。
5. 遺物実測は林知恵、龍が行ない、製図は林が行なった。
6. 遺構図中の方位は座標北を示し、全体図中の座標は世界測地系第Ⅱ系による。
7. 遺物、実測図、写真は小郡市埋蔵文化財調査センターにて管理・保管している。
8. 本書の執筆は龍が行なった。

本文目次

第1章 調査の経過と組織……………	1	第4章 遺構と遺物……………	6
1. 調査の経過		1. 住居跡	
2. 組織		2. 土坑	
第2章 位置と環境……………	2	3. 溝状遺構	
第3章 調査の内容……………	4	第5章 調査の成果……………	24

挿図目次

第1図 周辺遺跡分布図 (S=1/50,000)	第11図 住居跡・土坑出土土器・石器実測図 (S=1/4、1/6)
第2図 調査区位置図 (S=1/2,000)	第12図 1・2・4号土坑実測図 (S=1/40)
第3図 福童内畑遺跡遺構配置図 (S=1/120)	第13図 3・5・6号土坑実測図 (S=1/40)
第4図 1・2・4号住居跡実測図 (S=1/40)	第13図 1～3号土坑実測図 (S=1/40)
第5図 3号住居跡実測図 (S=1/40)	第14図 1号溝状遺構実測図 (S=1/40)
第6図 5・8号住居跡実測図 (S=1/40)	第15図 2～4号溝状遺構実測図 (S=1/40)
第7図 6号住居跡実測図 (S=1/40)	第16図 1号溝状遺構出土土器実測図 (S=1/4、1/6)
第8図 7・9号住居跡実測図 (S=1/40)	第17図 1号溝状遺構出土土器実測図② (S=1/4、1/6)
第9図 住居跡出土土器実測図① (S=1/4)	
第10図 住居跡出土土器実測図② (S=1/4、1/6)	

表目次

第1表 出土土器観察表・出土石器観察表・出土土製品観察表

図版目次

図版1 調査区全景（北から） 調査区全景（西から）
図版2 1～3号住居跡
図版3 3～9号住居跡
図版4 2～5号土坑、1号溝状遺構
図版5 1～6号住居跡出土遺物
図版6 5・6・8号住居跡、3号土坑、1号溝状遺構出土遺物
図版7 1号溝状遺構出土遺物
図版8 1号溝状遺構出土遺物

第1章 調査の経過と組織

1. 調査の経過

福童内畑遺跡の発掘調査に至る発端は、地権者より提出された宅地造成に伴う埋蔵文化財の有無の照会（令和3年11月1日 3小教文第21116号）に始まる。これを受けて、小郡市教育委員会は、令和3年11月11日に申請地を対象とした試掘調査を実施、その結果、申請地全域に遺構が分布することが明らかとなった。この結果に基づき、開発前に恒久的な構造物である道路部分について発掘調査が必要な旨を伝えた。その後協議を重ね、道路新設部分165.00㎡について発掘調査を実施することで合意し、令和4年1月28日付けで埋蔵文化財発掘の届出が提出された。令和4年2月1日付けで開発者であるドリームホーム株式会社と委託契約を締結した。3月16日付で農地の一時転用が許可されたことから、現地の発掘調査は3月23日に開始、5月2日に発掘調査を終了し、現地を引き渡した。令和3・4年度に現地発掘調査、令和4年度に出土遺物整理作業、報告書作成を実施している。

2. 調査の組織

調査の組織は以下の通り。

【令和3年度】

小郡市教育委員会	教育長	秋永晃生
	教育部長	山下博文
	文化財課	課長 柏原孝俊
		係長 杉本岳史
		技師 龍 孝明

【令和4年度】

小郡市教育委員会	教育長	秋永晃生
	教育部長	藤吉 宏
	文化財課	課長 杉本岳史
		係長 山崎頼人
		技師 龍 孝明

3. 調査の経過

調査の経過については、調査日誌から抜粋する。

令和4年3月23日表土剥ぎ開始 3月24日遺構検出・掘削開始 4月11日遺構配置図の作成開始
20日全体清掃、全景写真撮影 22日6号住居跡掘削 27日遺構掘削完了、全体清掃 29日レベル入れ
5月2日埋め戻し、現場引き渡し、調査終了

遺構図作成、土層断面図作成、遺構撮影、土層撮影は、掘削状況に応じて順次行った。

第2章 位置と環境

小郡市は、中央部を南北に宝満川が貫流し、北西部に脊振山系から派生する低丘陵地帯、通称三国丘陵があり、北東部に朝倉山塊の末端である花立山が唯一の高所となっている。小郡市域の中南部には、これら三国丘陵と花立山の低位に位置する低段丘地帯を経て、筑後平野へと連なる低台地が広がる。

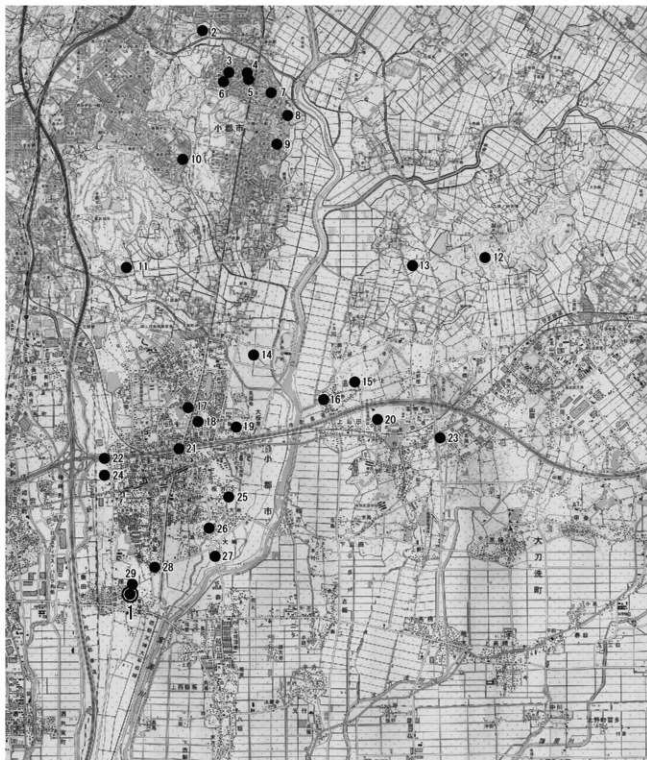
遺跡の立地する福童は、宝満川と秋光川に挟まれた市域中南部の低台地とその間の谷底平野に立地する。福童内畑遺跡は、低台地の南東端に位置する。西側には福童東内畑遺跡、北西側には福童町遺跡、その北に隣接する福童法司遺跡と一連の集落が形成されている。北東には寺福童遺跡が営まれる中段段丘があるが、秋光川の旧河道跡である谷部によって分離される。これまでの調査で、この地域一帯では、縄文時代から近代までの多様な遺構・遺物が確認されている。ただし、集落域としての連続性は見られず、断続的なものであったと考えられる。

福童町遺跡4次調査(SD08)で縄文時代後期の土器片が出土している。ただし、遺構は未確認である。弥生時代に入ると、福童町遺跡4次調査(SD10)で前期末の土器が出土しており、この頃から福童周辺で生活が営まれ始めたと考えられる。福童町遺跡の北東に位置する寺福童遺跡5次調査では、柳葉式磨製石鎌を伴う木棺墓や中期を主体とする甕棺墓群が検出されている。寺福童遺跡4次調査では、中期の中広形銅戈9本が埋納された状態で確認されている。しかし、これらの墓域や埋納遺構を形成した集団の集落は未確認である。福童町遺跡4次調査で中期末の溝が確認されており、8・9次調査でも中期の土器片が散見されるが、具体的な活動の様相は明らかでない。この時期の集落については、周辺に存在の可能性が述べられているに過ぎない。

福童町遺跡1次調査で、堅穴住居群と溝状遺構が検出されており、古墳時代初頭に集落形成が始まる。同時期の墓域としては、寺福童遺跡1の方形周溝墓4基が挙げられる。両者からは外来系の古式土師器が出土しており、小郡市域と畿内との関係を考えるうえで興味深い。大崎小園遺跡1・3次調査では、多量の外来系土器が出土しており、人びとが広域に活動していた様子がうかがえる。福童町遺跡8次調査で検出されたSD01は環濠と考えられ、集落の大枠を区画し、集落内部はSD02の小溝で2段階の区画で成立していたことが明らかとなっている。この集落は西側へと延長することが福童町遺跡3次調査で明らかとなった。福童町遺跡1次調査では、古墳時代中期～後期にかけての堅穴住居群も検出されており、継続した集落経営がなされていたことが明らかとなっている。また、遺跡の南東部にあたる3・7・8次調査で、集落を取り囲む区画と考えられる溝が検出されている。

中世の遺構・遺物は遺跡全体で散見され、福童町遺跡3次調査では、集落の圍繞施設と考えられる幅2.8mの溝が検出された。北に立地する福童山の上遺跡では、区画溝のほか水田に利用されたと考えられる多数の溝が検出されている。小郡堂の前遺跡3次調査では自然流路と水田に伴う水路が検出され、花粉分析の結果から、使用時のみ引水して水を流しており、ソバなどを作物とする畑作も行われていたと推定された。

近世になると、畑作を行った生産域が福童町遺跡3・14次調査で検出され、福童東内畑遺跡では井戸や溝といった生活に関連する遺構が検出され、1次調査区の東側に集落域が想定されている。ここからは17世紀以前の遺物が出土しないことから、近世以前は集落が形成されなかったと考えられる。17世紀以降、既存集落が手狭になり、生活圏が拡大したものと考えられる。



1. 福童内畑遺跡 2. 津古片曾葉遺跡 3. 津古1号墳 4. 津古2号墳 5. 津古3号墳 6. 津古水前遺跡
 7. 津古生掛遺跡 8. 三国の鼻1号墳 9. 横隈鍋倉遺跡 10. 一ノ口遺跡 11. 西島遺跡 12. 花立山古墳群
 13. 干潟嶺山遺跡 14. 大保横枕遺跡 15. 井上北内原遺跡 16. 井上庵寺 17. 小郡若山遺跡 18. 小郡官衛遺跡
 19. 大板井遺跡 20. 上岩田遺跡 21. 小郡前伏遺跡 22. 小郡小尻遺跡 23. 松崎六本松遺跡 24. 小郡野口遺跡
 25. 小坂井屋敷遺跡 26. 大崎小園遺跡 27. 大崎中ノ前遺跡 28. 寺福童遺跡 29. 福童町遺跡

第1図 周辺遺跡分布図 (S=1/50,000)

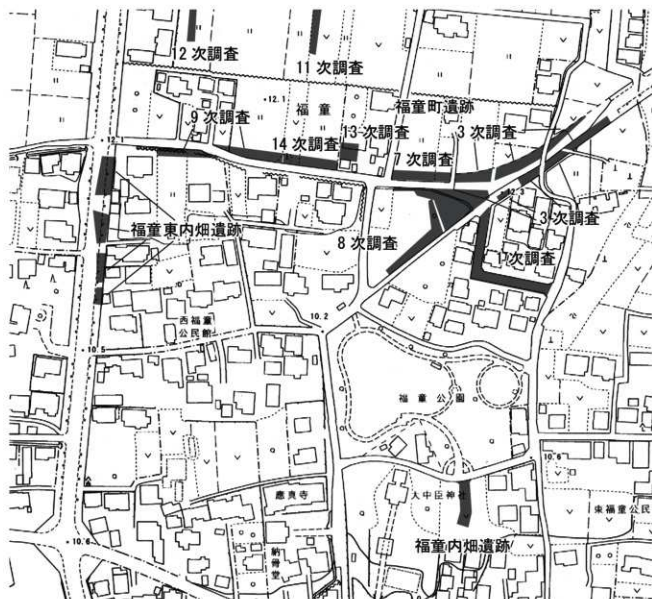
第3章 調査の内容

1. 遺跡の概要

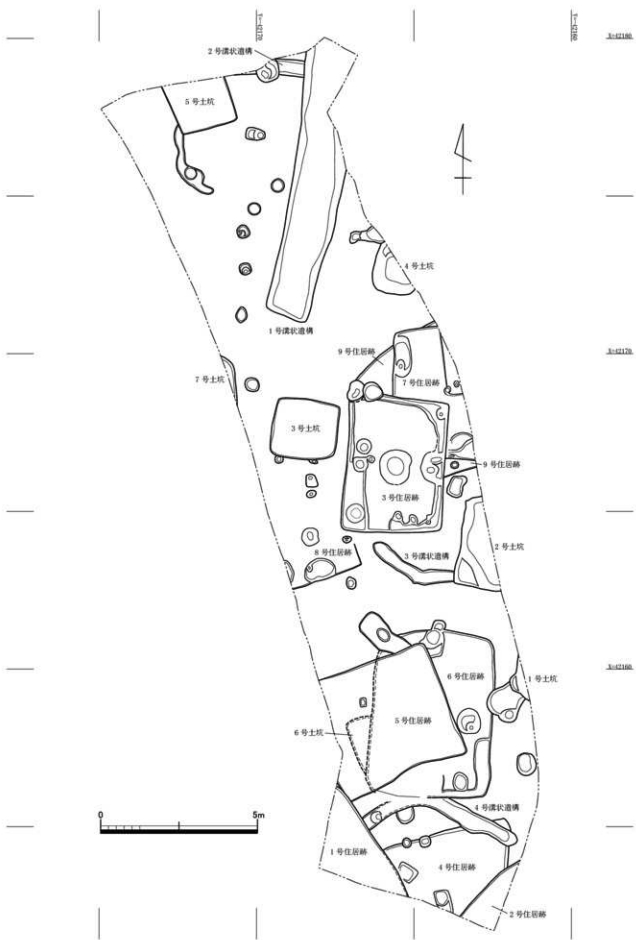
検出された主な遺構は堅穴住居跡9軒、土坑7基、溝状遺構4条である。ピットは複数検出したが、並びをもつものは確認できなかった。時期は、弥生時代中期末から後期前葉、弥生時代後期終末から古墳時代前期初頭を中心とする。

遺構検出面は、現況GLより75～80cmで、現代の耕作や樹の根により大きく攪乱を受けている。北側は遺構密度が薄く、遺存状態も悪いことから、削平を受けているものと考えられる。本来は、北から南へと緩やかに傾斜する地形であろう。

地山は調査区の中央付近を境に、東西で砂と粘質土に分かれている。東側の砂は宝満川の氾濫に起因する可能性があるが、現段階では不明である。



第2図 調査区位置図 (S=1/2,000)



第3図 福童内畑遺跡 遺構配置図 (S=1/120)

第4章 遺構と遺物

1. 住居跡

1号住居跡(第4図 図版2)

調査区南西端で検出した住居跡である。検出状況で4.19m以上を測り、ほとんどが調査区外へと続く。貼床はやや不明瞭で、南半は誤って掘り方で掘削し貼床をとばしている。検出面から貼床面までの深さは0.14m前後を測る。4・5号住居跡、4号溝を切る。出土遺物は少ないが、弥生時代後期終末の所産と考える。

出土遺物(第9図 図版5)

1は甕で、体部は球形で、口縁部はわずかに外反する。2は器台あるいは裝飾高坏の脚部である。端部から裾部にかけてコンパス状の工具を利用した連続弧文や棒状工具による連続刺突文が施される。瀬戸内以东からの搬入品であろう。いずれも覆土中から出土している。

2号住居跡(第4図 図版2)

調査区南東端で検出した住居跡である。検出状況で2.57m以上を測り、ほとんどが調査区外へと続く。貼床はやや不明瞭であった。検出面から貼床面までの深さは0.43m前後を測る。貼床の覆土からは炭化物がやや多く出土している。4号住居跡を切る。弥生時代中期末の所産と考えられる。

出土遺物(第9図 図版5)

3は甕で、口縁部は直線的にのび、頸部に1条の突帯がめぐる。体部はあまり張らず、外面全体にススが附着する。4、5は壺である。接合しないが同一個体と考えられる。4は袋状口縁壺の頸部から口縁部で、外面に赤色顔料が塗られる。5は底部から頸部まで残存する。

3号住居跡(第5図 図版2・3)

調査区中央付近で検出した平面プラン隅丸長方形の住居跡である。南北4.29m、東西3.09mを測る。検出面から貼床までの深さは0.12m前後を測る。東壁中央に壁面と接して掘り込みがあり、屋内土坑と考えられる。長軸1.10m、短軸0.94mの楕円形を呈する中央ビットがある。壁面には周壁溝が巡り、屋内土坑へとつながる。南西壁には幅0.61～0.8mの溝状の掘り込みがある。柱穴は確認できなかった。7号住居跡、9号住居跡を切る。位置関係から8号住居跡と切りあい関係にあると考えられるが、先後関係は不明である。3号土坑と並行している。弥生時代中期末の所産と考えられる。

出土遺物(第9図)

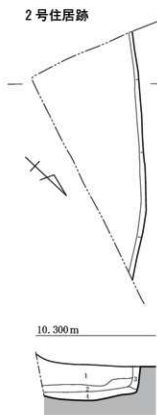
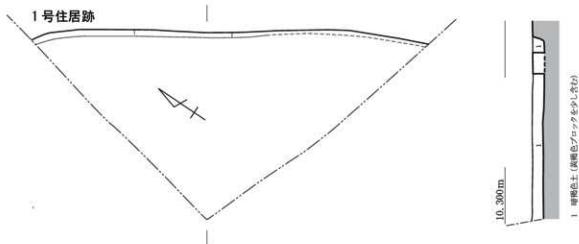
6、7は甕で、7は底部でわずかに上げ底。8は壺である。上半を欠くが、胎土精良で、器壁外面には赤色顔料が塗られる。35は覆土中から出土した投弾である。

4号住居跡(第4図 図版3)

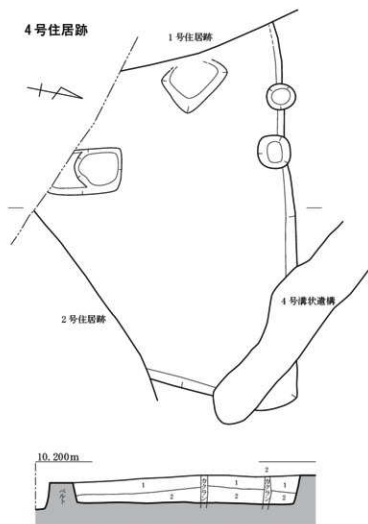
調査区南端で検出した。検出状況で4.14m以上を測る住居跡である。検出面から貼床までの深さは0.38m前後を測る。切りあい関係から、調査区の中では古い段階の住居跡と考えられるが、出土遺物からは時期差は見られない。1号・2号住居跡、4号溝に切られる。弥生時代中期末の所産であろう。

出土遺物(第9図 図版5)

9は器台の脚部で、10は鉢である。



- 1 灰褐色土 (土器片をやや多く含む)
 - 2 灰褐色土 (黄褐色土ブロックを少し含む)
 - 3 明灰褐色土
 - 4 暗褐色土 (黄褐色土ブロックをやや多く含む)
- ※第2層に炭化物あり



第4図 1・2・4号住居跡実測図 (S=1/40)

5号住居跡（第6図 図版3）

調査区南半で検出した隅丸長方形の住居跡である。東西4.20m、南北3.81mを測る。遺存状態が悪く、検出面から貼床までの深さは、最も残りの良い場所で0.08mである。貼床は一部削平を受けており、不明瞭であった。中央付近で石庖丁が貼床検出面で出土している。南半では甕棺が潰れたような状態で出土している。周辺を精査したが、掘り込みは確認できなかったため、住居跡に伴うものとして報告する。1号住居跡に切られ、6号住居跡を切る。中期末の土器も含まれるが、6号住居跡の遺物が混入したものと考えられる。弥生時代後期初頭～前葉の所産と考える。

出土遺物（第9・10・11図 図版5・6）

11から13は甕、14～20は壺、15は鉢である。29と30は甕棺で、色調、器壁の厚さともに似るが、接合しない。14は胸部最大径直下に焼成後の穿孔がある。16は多重突帯をもつ。外面から打ち欠かれたもの。31は袋状口縁壺で、頸部と体部突帯の間に鉤状の貼付文を施す。17は瓢形土器で、18は口縁端部に縦方向の連続した刻み目を入れる。19は胸部最大径および頸部の付け根に突帯を巡らせる。20はわずかに上げ底になっている。21は袋状口縁壺で外面丹塗り。33は覆土中から出土した石庖丁である。

6号住居跡（第7図 図版3）

5号住居跡に切られる隅丸長方形プランの住居跡である。長軸5.34m、短軸3.84m、検出面から貼床までの深さは0.1m前後を測る。北壁中央付近にピット状の張り出しを持つ屋内土坑がある。中央付近には、浅い不定形の掘り込みが見られる。両わきに柱穴が見られる。南西壁は、4号溝との切りあい関係を見誤り掘削してしまっている。5号住居跡に切られ、6号土坑、4号溝を切る。

出土遺物（第10・11図 図版5・6）

22、23は甕で、24～27は鉢である。口縁端部は丸くおさめ、やや内湾する。24は鉢で、底部は上げ底になっている。25～27は素口縁の鉢。32は砂岩製の砥石である。

7号住居跡（第8図 図版3）

3号住居跡に切られる住居跡である。東半は調査区外へと続く。南北4.09mを測る。北側の東壁付近に比高差0.03mほどのわずかな高まりが見られる。ベッド状遺構であろうか。北西角には長軸1.29m、短軸0.54mを測る楕円形の掘り込みがあり、屋内土坑と考えられる。9号住居跡を切る。

出土遺物（第11図）

土器はいずれも小片で図化できなかった。34は石庖丁である。

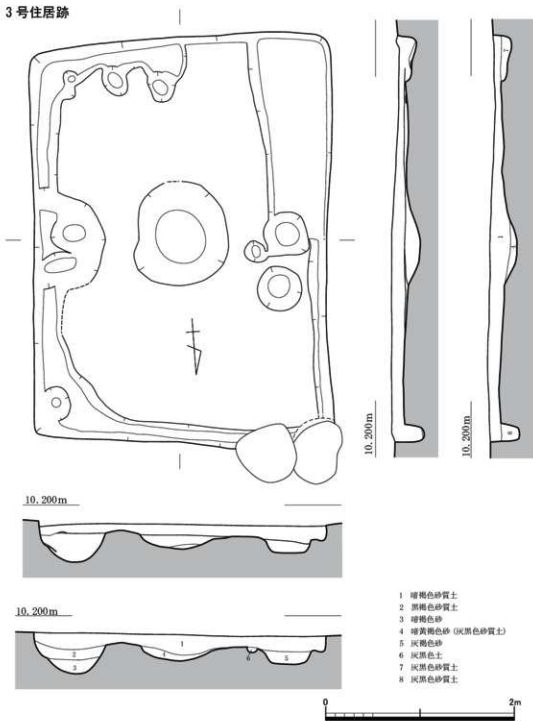
8号住居跡（第6図 図版3）

調査区中央付近で検出した住居跡である。遺存状態は悪く、南壁と東壁の一部が残り、北半は削平される。西壁土層から南北3.37m、東西は残存部から2.31m以上を測る。他の住居跡に比べ、やや規模の小さな住居跡である。位置関係から3号住居跡と切りあい関係にあると考えられるが、先後関係は不明である。

出土遺物（第10図）

28は甕である。底部は上げ底になっている。

3号住居跡

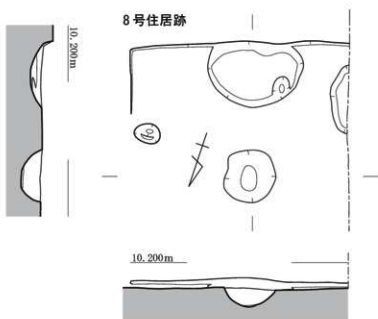
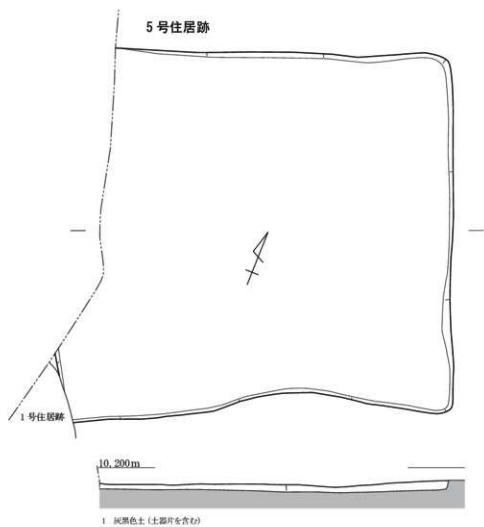


第5図 3号住居跡実測図 (S=1/40)

9号住居跡 (第8図 図版3)

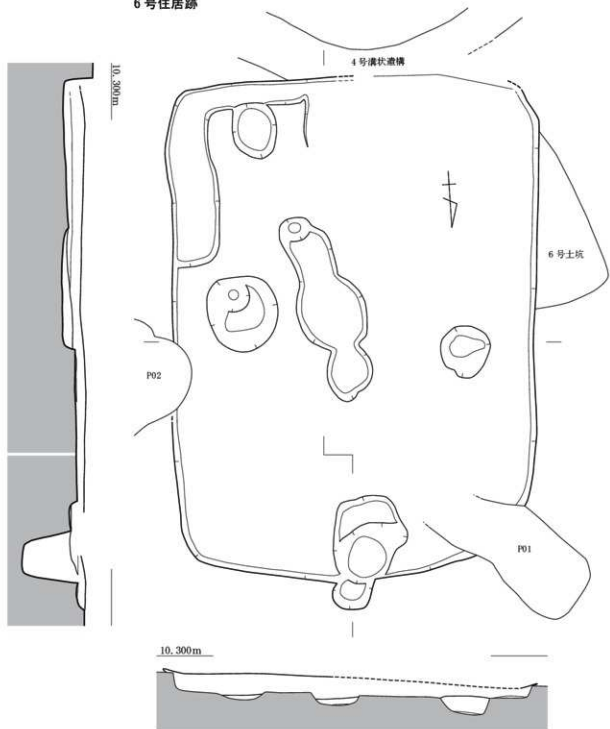
3号・7号住居跡に切られる住居跡である。南北4.46m、東西3.14m以上を測る。柱穴などは確認できないが、周辺の遺構分布状況、平面プランから住居跡と考える。

出土遺物はいずれも小片で図化できなかった。



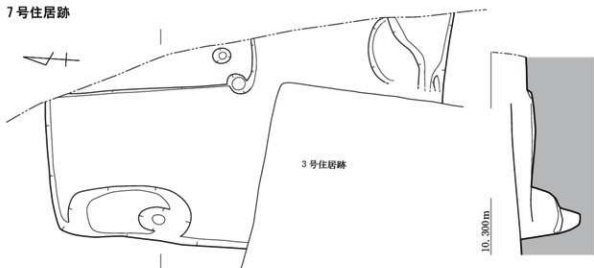
第6図 5・8号住居跡実測図 (S=1/40)

6号住居跡

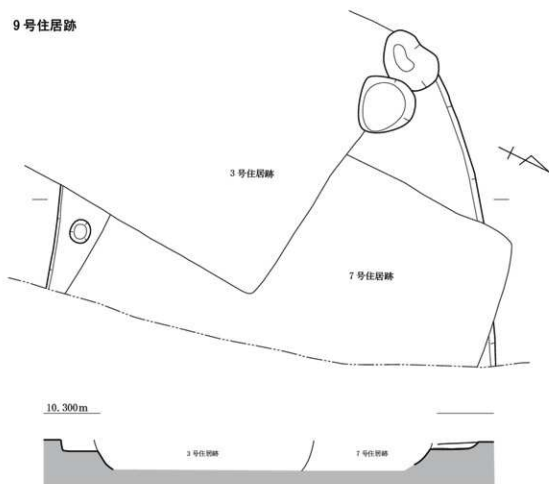


第7図 6号住居跡実測図 (S=1/40)

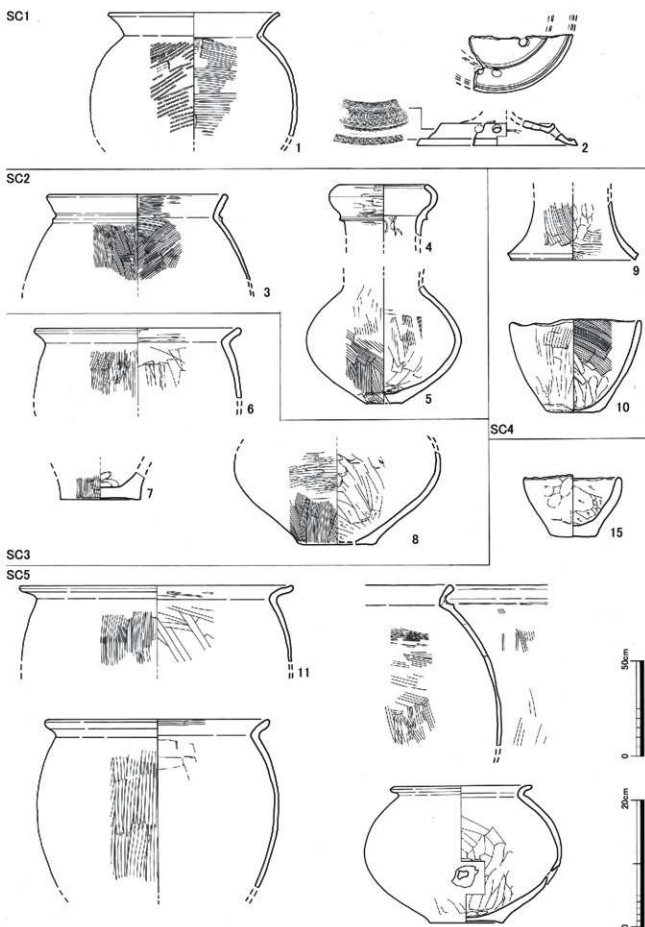
7号住居跡



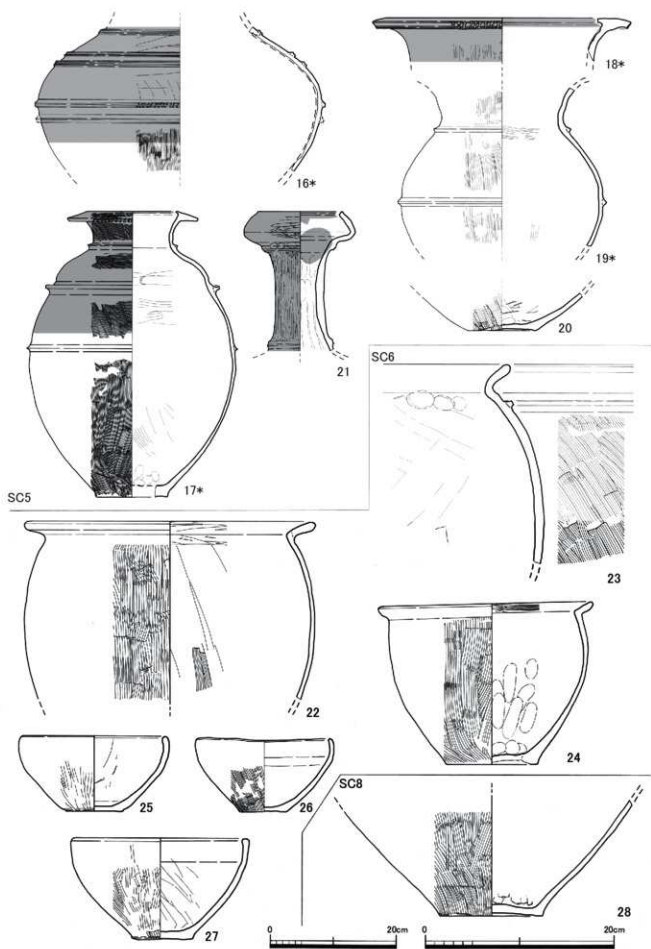
9号住居跡



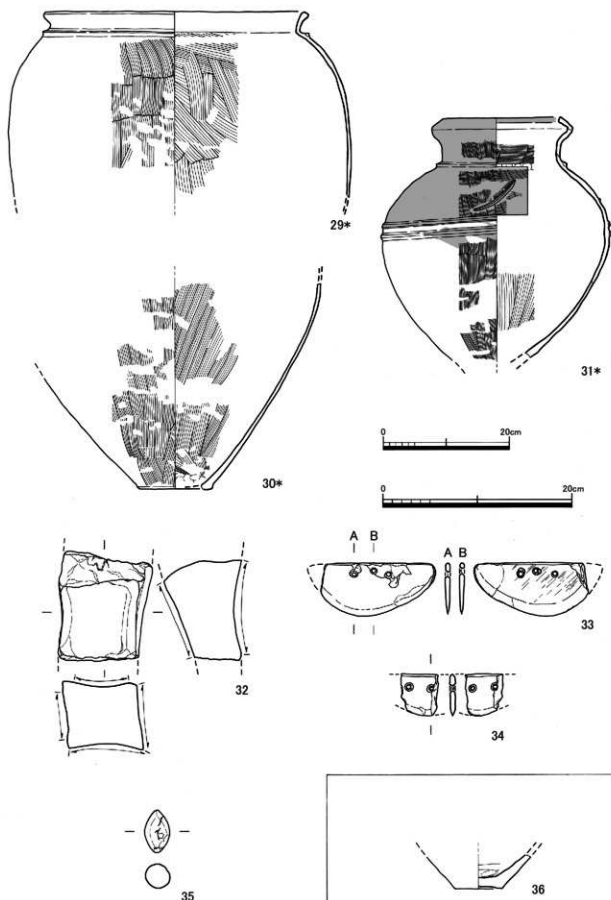
第8圖 7・9号住居跡実測図 (S=1/40)



第9図 福童内畑遺跡 住居跡出土土器実測図① (S=1/4)



第10図 福童内畑遺跡 住居跡出土土器実測図② (S=1/4 *はS=1/6)



第 11 図 福童内畑遺跡 住居跡・土坑出土土器・石器実測図 (S=1/4 *はS=1/6)

2. 土坑

1号土坑 (第12図)

調査区南半、東壁付近で検出した土坑である。ほとんどが調査区外へと続いており、平面プランは不明。残存部で長さ1.49mを測る。西側にはテラス状の段があり、深さは現況で最大0.64mを測るが、下端は調査区外である。

2号土坑 (第12図 図版4)

調査区中央付近、東壁で検出した土坑である。平面プランは方形を呈すると考えられる。南北で2.65m、東西は1.50m以上を測る大型の土坑である。南西角にテラスを持ち、深さは最大で0.47mを測る。3号溝を切る。

3号土坑 (第13図 図版4)

調査区中央付近で検出した平面プラン隅丸方形の土坑状遺構である。東西2.10m、南北1.91m、深さは最大で0.19mを測る。3号住居跡と同じ軸を持つ。出土遺物は少ないが、弥生時代中期末の所産と考えられ、3号住居跡の関連施設とも考えられるが性格は不明である。

出土遺物 (第11図)

36は甕底部である。わずかに上げ底になっている。

4号土坑 (第12図 図版4)

調査区北半、東壁で検出した隅丸長方形の平面プランを持つ土坑である。長さ1.37m前後となる。検出面からの深さは最大で0.32mを測る。北側にテラス状の段を持つ。

5号土坑 (第13図 図版4)

調査区北端で検出した3号土坑と似た平面プラン、規模をもつ土坑である。東西1.82m、南北1.67m以上を測る。残りが悪く、検出面からの深さは最大で0.08mである。

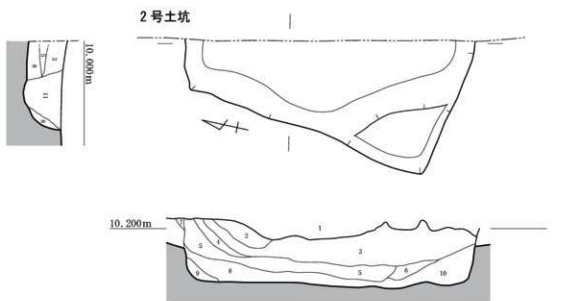
6号土坑 (第13図)

5号住居跡の下層遺構である。長さ1.72m以上、幅0.84m以上、検出面からの深さは最大で0.12mを測る。平面プラン、壁面の立ち上がりから住居跡の可能性が考えられるが、南側へ遺構が続かないことから、南北軸は最大でも2.3mほどであり、住居跡としては規模が小さい。ここでは土坑として報告する。

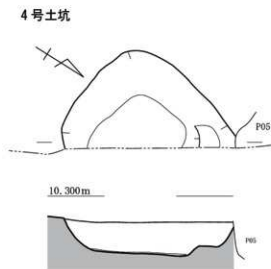
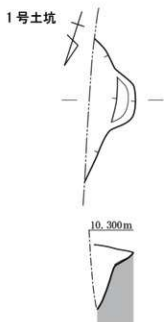
7号土坑 (第3図)

調査区中央付近西壁で検出した土坑である。ほとんどが調査区外へと伸びており、平面プランは不明である。残存部で長さ1.59m以上を測る。住居跡の可能性が考えられるが、壁面の立ち上がりがやや緩やかで、住居跡と断定できないため、ここでは土坑として報告する。

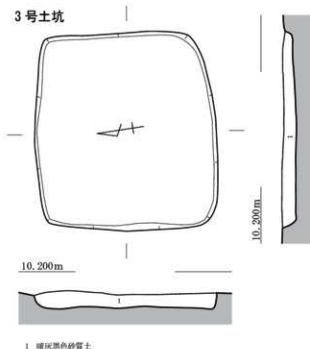
出土遺物はない。



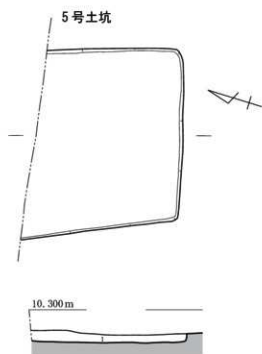
- 1 耕作土
- 2 褐色土 (0~7mmの石を少量含む)
- 3 明褐色土 (土器片を含む)
- 4 明褐色土 (明褐色砂ブロックを少しを含む)
- 5 暗褐色土 (砂粒をやや多く含む)
- 6 淡黒色砂質土
- 7 明黄灰粘質土
- 8 灰褐色砂質土
- 9 灰褐色砂
- 10 黒色砂質土
- 11 黒色土 (土器片を含む)



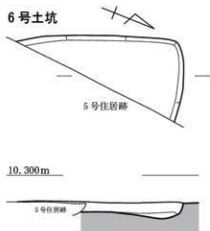
第12図 1・2・4号土坑実測図 (S=1/40)



1 硬灰黑色砂質土



1 灰黑色土 (黄褐色土ブロックを少し含む)



第13図 3・5・6号土坑実測図 (S=1/40)

3. 溝状遺構

1号溝状遺構(第14図 図版4)

調査区北端からやや東に振れるが、ほぼ南北方向に直線的にのびる溝である。北側は調査区外へと続く。長さは8.85m以上、幅は1.41から1.64m、深さは0.25～0.40mを測る。床面はほぼ平坦であるが、わずかに南へと下がる。排水などを目的としたものではないと考えられる。断面は逆台形で、埋土はレンズ状の自然堆積を示すが、第2層にほぼ完形の土器が多数と、その上に蓋するように焼土塊が見られた。

出土遺物(第16・17図 図版7・8)

1～14は上層から、15～36は中層以下から出土した。37、38は上層から出土した土製品である。1～4は甕で、5～7は壺、8～11は鉢、12、13は器台、14はミニチュア土器である。甕は、口縁部がわずかに外反しながら直線的にのびるものと、内湾するものが見られる。5は平底の二重口縁壺で、頸部から口縁部にかけて、器壁内面の屈曲が弱い。7は口縁が直線的にのび、大きく開く。11は台付鉢で、口縁端部を欠く。13は畿内系の小型器台である。17は器壁が薄く、肩部に波状文が見られる。18は丸底の二重口縁壺で、胴部最大径は中位よりやや上にあり、肩が張る。頸部は上に向かってすぼまり、口縁端部は外反しながら大きく開く。20～25は小型丸底壺で、口縁端部がわずかに内湾するものと直線的にのびるものが見られる。24、25は口縁部が大きく開く。26、27は鉢で、26は底部中心からずれた位置に焼成前穿孔が穿たれる。28、29は碗で口縁端部を薄く仕上げる。30～31は在地系の高坏で、脚部の成形に違いが見られる。34は台付鉢、35は脚部に4か所の焼成前穿孔を施す畿内系小型器台、36は口径33.0cmを測る大型の鼓形器台である。受部内面はヘラケズリ整形後にミガキを施す。口縁部付近は比較的丁寧に磨くが、下半は非常に雑で、整形時のヘラケズリが残る。37は上層から出土した不明土製品で、柄または把手であろうか。38はボタン状土製品である。そのほかに小片のため図示していないが、手焙り形土器、朱入れ壺と考えられる口縁部が出土している。

2号溝状遺構(第15図)

調査区北端で検出した溝状遺構で、東西方向に延びる。幅は0.51mを測る。1号溝状遺構に切られ、西側は調査区外へと延びる。

出土遺物はない。

3号溝状遺構(第15図)

2号土坑に切られる。平面形は屈曲してくの字状を呈する。幅0.4m前後を測る。断面U字形で、暗褐色土の単一土層。

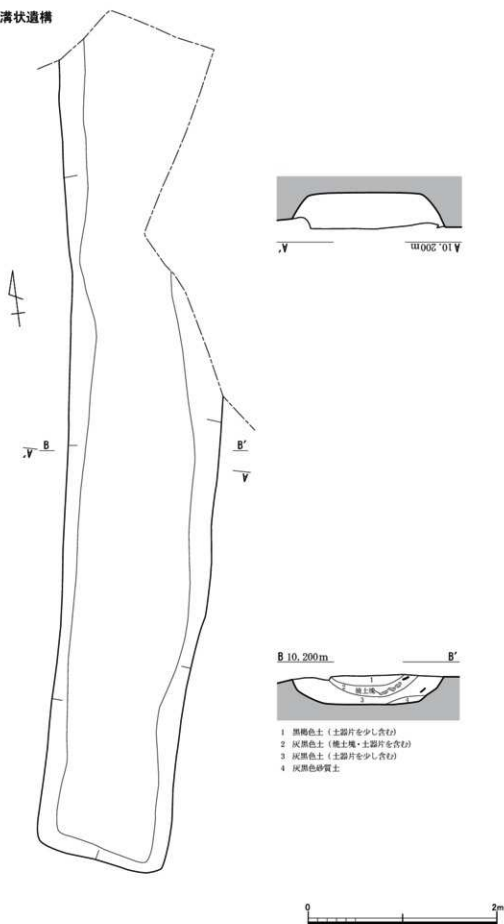
出土遺物はいずれも小片で図化できなかった。

4号溝状遺構(第15図)

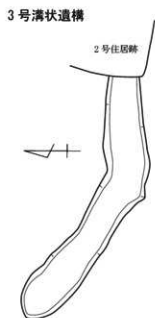
調査区南半で検出した溝状遺構で、平面プランはくの字状を呈する。幅は0.42から0.62mを測り、断面は逆台形である。4号住居跡を切り、1号・6号住居跡に切られる。

出土遺物はいずれも小片で図化できなかった。

1号溝状遺構



第 14 図 1号溝状遺構実測図 (S=1/40)



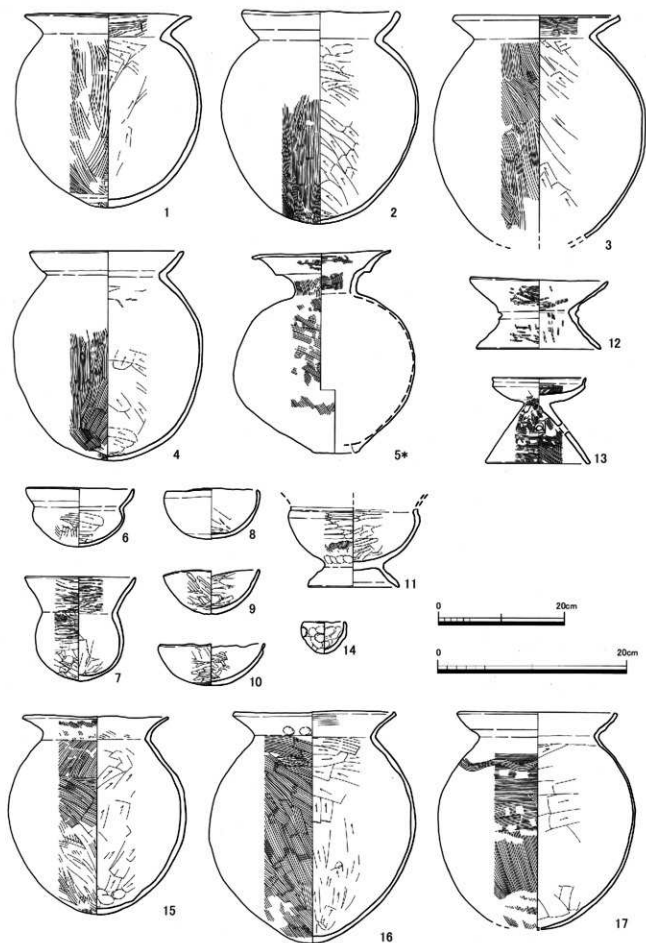
10, 200m



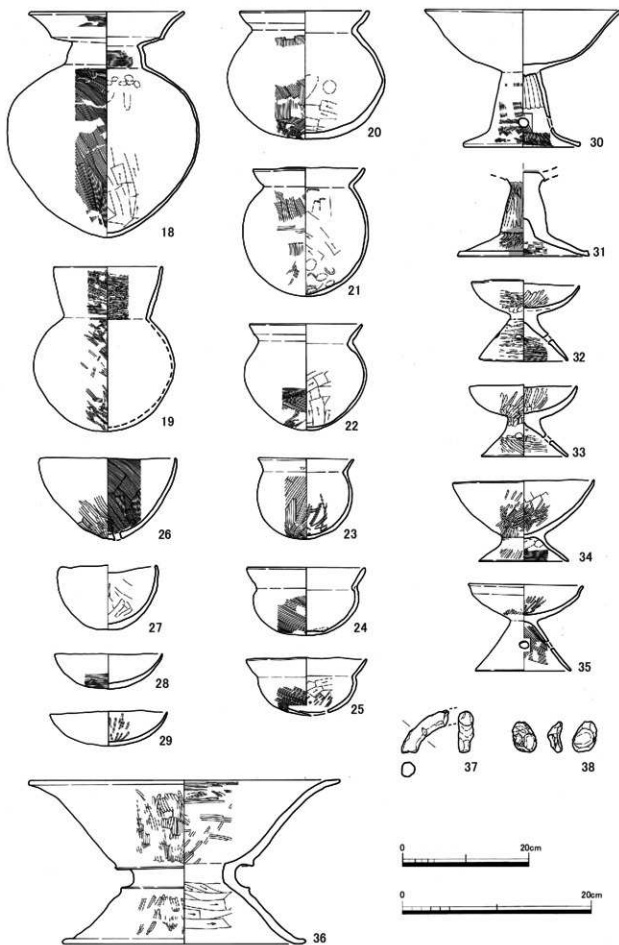
- 1 灰黑色土 (土器片を少し含む)
- 2 埋黄褐色土、灰色粘土、明黄褐色砂質土の混土
- 3 埋褐色粘質土



第 15 図 2～4号溝状遺構実測図 (S=1/40)



第16図 福童内畑遺跡 1号溝状遺構出土土器実測図① (S=1/4、*はS=1/6)



第17图 福童内畑遺跡 1号溝状遺構出土土器実測図② (S=1/4、*はS=1/6)

第5章 調査の成果

福童内畑遺跡の1次調査では、住居跡9軒、土坑7基、溝状遺構4条を検出した。出土した土器から、弥生時代中期末から後期前葉にかけて、後期終末から古墳時代初頭にかけての2時期に短期間営まれた集落と考えられる。弥生時代後期終末から古墳時代初頭の集落は、北に位置する福童町遺跡1・3次調査区で同時期の遺物が出土している。検出した遺構のうち、中心となるのは中期末で、出土遺物から3号・4号住居跡が該当する。3号住居跡に切られる7号・9号住居跡も出土遺物が少なく、時期の決め手に欠けるが、同時期の所産と考える。6号住居跡も中期末と考えられ、やや新しい時期の土器が見られるのは、5号住居跡からの混入の可能性がある。5号住居跡は後期初頭の所産で、糸島地域に多く見られる多重突帯をもつ壺、貼付浮文のある壺は、近隣では筑紫野市の以来尺遺跡で類例が出土している。この鉤状の浮文を貼り付けた土器は、福岡市雀居遺跡、千里遺跡、那珂遺跡などでも見られる。この鉤状の貼付文は、「本来勾玉を意図していたものが形骸化したもの」（秦1997）と推定されている。那珂遺跡群21次調査や徳坂天神原遺跡で出土した壺には、U字あるいはハート形の浮文が貼付されている。祭祀土坑から出土する傾向から、「日」と区別する「月」を象った図像として「復活」・「再生」の意味が込められた」（常松2023）のではないかと推定している。

5号住居跡からは、甕棺と考えられる大型の甕が、覆土中より押しつぶされたような状態で出土している。土器周辺を精査したが、墓塚は検出できなかった。性格は不明であるが、5号住居跡に伴うものと考えられる。

当集落における後期中葉以降の様子は明らかでないが、後期終末に入ると、再び集落が営まれ始めたと考えられ、この時期の遺構としては1号住居跡が該当する。1号住居跡から出土した器台あるいは装飾高坏は、弥生時代後期に瀬戸内地域一帯で見られるもので、岡山県岡山市の百間川原尾島遺跡丸田調査区の溝39・40出土遺物に類例が見られる。瀬戸内以東からの搬入品と考えられる。後期終末以降の集落については、当遺跡の南側へと展開するのか、現段階では不明である。

1号溝状遺構からは、ほぼ完形の土器が多量に出土した。多くが口を上に向けていたことから、投棄されたのではなく、置かれたものと考えられる。埋土中には焼土塊が多く見られ、祭祀に関係する遺構と考えられるが、その性格は不明である。集落の区画溝や直線的な平面プランを持つことから、方形周溝墓の一部となる可能性もある。1号住居跡と同一時期もしくは前後する時期の所産と考えられるが、1号住居跡出土の土器が少ないため、その関係性は不明である。周辺調査例の増加を待って、その性格について、再度検討しなければならない。

最後に攔筆するにあたり、久住猛雄氏には出土資料の実見や有益な意見、助言をいただきました。末尾になりましたが、記して篤く御礼申し上げます。

【参考文献】

- 岡田 博 1984「溝39・溝40」『百間川原尾島遺跡2』旭川放水路（百間川）改修工事に伴う発掘調査Ⅴ（建設省岡山河川工事事務所・岡山県教育委員会）
- 秦 憲二 1997「44号住居跡」『以来尺遺跡1』一般国道3号筑紫野バイパス関係埋蔵文化財調査報告 第4集
- 常松 幹雄 2023「跋鳥と鱸鯨」『弥生文化博物館研究報告』第8集（大阪府立弥生文化博物館）

遺器名	押収番号	回収番号	規格	法量 (cm)	色調	胎土	構成	成形・装束	備考
1号住居跡	9-1	—	罫	口：(18.2) 高：(13.0)	内：橙 外：橙～にぶい橙	径 3mm 以下の砂粒を含む	良	内：粗いハケ目 外：タタキ	体部外面にコグケ付
1号住居跡	9-2	5-1	縁白	高：(2.7) 底：(17.0)	内：浅黄緑～にぶい橙 外：にぶい黄緑～浅黄緑	径 1mm 以下の砂粒を含む	良	内：ハケ目・ナデ 外：ナデ・ミガキ	施文・穿孔あり 胴内面から内蔵入品か
2号住居跡	9-3	—	罫	口：(28.8) 高：(13.5)	内：黄緑 外：黄緑～灰黄緑	径 2mm 以下の砂粒を含む	良	内：ハケ目 外：ヨコナデ・ハケ目	内全面にスス付着
2号住居跡	9-4	—	罫	口：(9.6) 高：(5.4)	内：橙 外：明赤黄～にぶい橙	径 2mm 以下の砂粒を含む	良	内：ヨコナデ・シボリ 外：ミガキ	傢伙口縁 外面に赤色顔料
2号住居跡	9-5	5-2	罫	高：(12.2) 底：(3.0)	内：橙～明赤黄 外：にぶい橙～黄	径 1mm 以下の砂粒を多く含む	良	内：ケズリ・ハケ目 外：ハケ目・ミガキ	全体の施文
3号住居跡	9-6	—	罫	口：(22.0) 高：(7.5)	内：にぶい黄緑～にぶい橙 外：にぶい黄緑～にぶい黄	径 1mm 以下の砂粒を含む	良	内：ケズリ後丁寧ナデ 外：要なハケ目	
3号住居跡	9-7	—	罫	高：(2.9) 底：(8.6)	内：浅黄緑 外：黄緑～灰黄緑	径 1mm 以下の砂粒を含む	良	内：指オサエ・ナデ 外：ハケ目	胎土面から出土
3号住居跡	9-8	—	罫	高：(9.8) 底：(8.6)	内：灰～オリーブ灰 外：浅黄緑～橙	靱良	良	内：ケズリ後ナデ 外：ハケ目・ミガキ	外面に赤色顔料
4号住居跡	9-9	5-3	縁白	高：(6.2) 底：(13.8)	内：橙 外：橙～にぶい橙	径 2mm 以下の砂粒を含む	良	内：ハケ目・ナデ 外：ナデ・ミガキ	
4号住居跡	9-10	5-4	罫	口：(14.0) 高：9.8 底：(8.6)	内：灰黄～浅黄緑 外：にぶい橙～黒	径 2mm 以下の砂粒を多く含む	良	内：ナデ・ハケ目 外：粗いハケ目	外面底部付近に黒斑
5号住居跡	9-11	5-5	罫	口：(29.0) 高：(8.0)	内：浅黄緑～にぶい黄緑 外：浅黄緑～にぶい黄緑	径 1mm 以下の砂粒を含む	良	内：粗いナデ 外：ハケ目	体部外面にスス付着
5号住居跡	9-12	—	罫	口：(23.6) 高：(17.6)	内：にぶい黄緑 外：にぶい黄緑～灰黄緑	径 2mm 以下の砂粒を含む	良	内：ナデ・ケズリ 外：ハケ目・ナデ	口縁部にスス付着
5号住居跡	9-13	—	罫	高：(25.4)	内：にぶい橙～橙 外：にぶい黄緑～にぶい黄	径 4mm 以下の砂粒を含む	良	内：ハケ目・ナデ 外：ハケ目	ハケ目工具は 2 種使用
5号住居跡	9-14	5-6	罫	口：(15.1) 高：14.5 底：7.8	内：橙～灰黄 外：にぶい橙～橙	径 2mm 以下の砂粒を含む	良	内：ケズリ・工具ナデ 外：ハケ目・ナデ 外：ハケ目 調整不明	胴部最大径下に施成後穿孔 底内外面に黒斑
5号住居跡	9-15	5-7	罫	口：10.5 高：6.5	内：にぶい橙～黄 外：にぶい黄	径 8mm 以下の砂粒を含む	良	内：ケズリ 外：ケズリ後ナデ	底部は無装束
5号住居跡	10-16	5-8	罫	高：(22.7) 底：45.8	内：灰黄～にぶい橙 外：橙～明赤黄	径 3mm 以下の砂粒を含む	良	内：縦装束のため不明 外：ハケ目・工具ナデ	多量装束 胴部最大径の突等に刺目
5号住居跡	10-17	5-9	罫	口：13.6 高：45.0 底：(29.6) 底：11.7	内：灰黄～浅黄 外：灰黄～明赤黄	径 3mm 以下の砂粒を含む	良	内：ハケ目 外：ハケ目	彫形土器 口縁部に刺目
5号住居跡	10-18	5-10	罫	口：(41.2) 高：(7.0)	内：にぶい黄緑～にぶい橙 外：浅黄緑～にぶい赤	径 3mm 以下の砂粒を含む	良	内：前縁により不明 外：ハケ目	丹入り
5号住居跡	10-19	5-11	罫	高：(24.2) 底：32.0	内：橙～にぶい橙 外：橙～にぶい橙	径 3mm 以下の砂粒を含む	良	内：ハケ目後丁寧ナデ 外：ハケ目	外面底部突等以下にスス付着
5号住居跡	10-20	5-12	罫	高：(4.0) 底：7.4	内：にぶい黄緑～黄 外：にぶい橙～灰黄	径 3mm 以下の砂粒を少し含む	良	内：工具ナデ 外：ハケ目・ナデ	外面底部付近に黒斑
5号住居跡	10-21	5-13	罫	口：(9.0) 高：(14.7)	内：浅黄緑～黄 外：黄	径 1mm 以下の砂粒をわずかに含む	良	内：ケズリ・シボリ 外：ミガキ	傢伙口縁 外面に丹入り
6号住居跡	10-22	5-14	罫	口：30.8 高：(19.6)	内：にぶい黄緑～黄 外：にぶい橙～灰黄	径 4mm 以下の砂粒を含む	良	内：工具ナデ、ハタ状 工具ナデ 外：ハケ目・ナデ	外面底部上半から外面中部に かけスス付着
6号住居跡	10-23	5-15	罫	高：(20.9)	内：にぶい橙～にぶい黄緑 外：にぶい黄緑～黄	径 7mm 以下の砂粒を含む	良	内：工具ナデ・ナデ 外：ナデ・ハケ目	外面中部位に黒斑あり
6号住居跡	10-24	6-1	罫	口：22.8 高：17.1 底：9.8	内：にぶい橙 外：にぶい橙～灰黄	径 3mm 以下の砂粒を含む	良	内：指オサエ・ナデ上げ 外：ハケ目	外面中部位以下にコグ 外面底部に被熱黒斑 内面底部に刺眼
6号住居跡	10-25	6-2	罫	口：(15.0) 高：7.0 底：(6.0)	内：浅黄緑～灰白 外：浅黄緑～黄	径 2mm 以下の砂粒を含む	良	内：工具ナデ後ナデ 外：ハケ目	外面底部から底部に黒斑
6号住居跡	10-26	6-3	罫	口：14.9 高：7.7 底：5.2	内：橙 外：橙～黄	径 3mm 以下の砂粒を含む	良	内：工具ナデ後ナデ 外：ハケ目	ほぼ定形 外面底部に黒斑
6号住居跡	10-27	6-4	罫	口：18.9 高：10.8 底：6.6	内：にぶい橙～灰黄 外：にぶい橙～黄	径 3mm 以下の砂粒を含む	良	内：工具ナデ 外：ハケ目	ほぼ定形 外面に一部黒斑
8号住居跡	10-28	—	罫	高：(12.3) 底：11.0	内：にぶい橙～灰黄 外：にぶい橙～黒	径 2mm 以下の砂粒を含む	良	内：工具ナデ、指頭圧痕 外：ハケ目・ナデ	外面中部に黒斑 外面底部にコグあり
5号住居跡	11-29	6-5	罫	口：42.3 底：44.4	内：にぶい黄緑 外：にぶい赤	径 5mm 以下の砂粒をやや多く含む	良	内：ハケ目 外：ハケ目	襷
5号住居跡	11-30	6-6	罫	高：(32.4) 底：11.4	内：にぶい黄緑 外：淡い赤	径 5mm 以下の砂粒をやや多く含む	良	内：ハケ目 外：ハケ目	襷 体部の歪み大きい
5号住居跡	11-31	6-7	罫	口：18.6 高：(37.8) 底：36.8	内：赤黄 外：淡赤	径 1mm 以下の砂粒を少し含む	良	内：ハケ目・ナデ 外：ハケ目	傢伙口縁 体部上半に彫形の貼付文 外面に丹入り
3号土坑	11-36	—	罫	高：(3.6) 底：5.2	内：浅黄緑～黄 外：浅黄緑～黄	径 2mm 以下の砂粒を含む	良	内：ナデ、指頭圧痕 外：ナデ	外面に黒斑あり
1号溝状遺構 上層	16-1	6-8	罫	口：17.6 高：20.3 底：19.6	内：にぶい橙～灰黄 外：にぶい黄緑～黒	径 3mm 以下の砂粒を多く含む	良	内：ハケ目・ケズリ 外：ハケ目・ナデ、タタキ	外面全体にスス付着 外面底部にわずかにタタキ 内面底部にコグあり
1号溝状遺構 上層	16-2	6-9	罫	口：16.8 高：22.4 底：21.0	内：浅黄緑～にぶい黄緑 外：浅黄緑～黄	径 2mm 以下の砂粒を含む	良	内：ナデ、ケズリ 外：ナデ、縦なハケ目	外面底部に黒斑あり
1号溝状遺構 上層	16-3	6-10	罫	口：(23.8) 底：22.4	内：にぶい黄緑～にぶい黄 外：灰黄～灰	径 3mm 以下の砂粒を含む 赤色土粒を含む	良	内：ハケ目・ケズリ 外：ナデ・ハケ目	体部外面中部以下に黒斑 底部内面にコグ
1号溝状遺構 上層	16-4	6-11	罫	口：16.3 高：22.0 底：20.0	内：黄緑 外：黄緑～灰黄	径 4mm 以下の砂粒を含む	良	内：ナデ・ケズリ 外：ナデ・ハケ目	胴部外面にタタキの磨痕 胴部外面にススが多く付着
1号溝状遺構 上層	16-5	6-12	二重口 縁白	口：22.2 高：32.0 底：28.8	内：黄緑 外：にぶい黄緑～にぶい赤	径 2mm 以下の砂粒を含む	良	内：ハケ目・ナデ・ミガキ 外：ハケ目・ミガキ	体部外面中部に黒斑あり 胴部外面に単位不明のミガキ 口縁部に黒斑
1号溝状遺構 上層	16-6	6-13	罫	口：11.5 高：6.3	内：にぶい黄緑～灰黄 外：にぶい黄緑～黄	径 2mm 以下の砂粒をわずかに含む	良	内：ケズリ・ナデ 外：ハケ目・ナデ	縦装束 1/3 に黒斑
1号溝状遺構 上層	16-7	6-14	罫	口：(11.6) 高：11.0	内：にぶい黄緑 外：にぶい黄緑	径 1mm 以下の砂粒を含む	靱良	内：ミガキ・ナデ・ケズリ 外：ミガキ・ケズリ	良品

1号溝状遺構 土層	16-8	6-15	硜	口：9.8 高：4.5	内：にぶい黄褐色 外：にぶい黄褐色	径 1mm 以下の砂粒を含む 軽良	内：工具ナデ 外：ナデ (調整不明)	ほぼ方形
1号溝状遺構 土層	16-9	7-1	硜	口：9.9 高：4.8	内：にぶい黄褐色～灰黄褐色 外：にぶい黄褐色～褐色	径 1mm 以下の砂粒を含む 軽良	内：ケズリ・ナデ・ミガキ 外：ミガキ (調整不明)	ほぼ方形 縁部外面に黒炭
1号溝状遺構 土層	16-10	7-2	硜	口：11.2 高：4.5	内：にぶい黄褐色 外：にぶい黄褐色	径 1mm 以下の砂粒を含む 軽良	内：ケズリ・ナデ・ミガキ 外：ケズリ・ナデ・ミガキ	ほぼ方形 高台部は 1/2 矩形
1号溝状遺構 土層	16-11	7-3	台付 鉢	口：14.7 高：7.0 底：9.7	内：黄褐色 外：黄褐色	径 3mm 以下の砂粒を含む 赤色土層を含む	内：ケズリ・ナデ・ミガキ 外：ケズリ・ナデ	高台部は 1/2 矩形 縁部は 1/2 矩形
1号溝状遺構 土層	16-12	7-4	陶器	口：13.2 高：10.0 底：10.0	内：黄褐色 外：黄褐色	径 2mm 以下の砂粒を含む	内：ミガキ後ナデ 外：ミガキ後ナデ	方形 調整粗雑
1号溝状遺構 土層	16-13	7-5	陶器	口：10.2 高：9.0 底：11.2	内：にぶい黄褐色～灰黄褐色 外：にぶい黄褐色	径 1mm 以下の砂粒を含む 軽良	内：ハケメ・ミガキ 外：ハケメ・ミガキ・工 具ナデ	縁部系小型陶器 脚部に焼成前穿孔 2 か所 外面に黒炭
1号溝状遺構 土層	16-14	—	ミ チ ア	口：4.4 高：(3.4)	内：黄褐色～にぶい黄褐色 外：黄褐色～褐色	径 2mm 以下の砂粒を含む	内：指オサエ 外：指オサエ	約 1/2 残存
1号溝状遺構	16-15	7-6	罎	口：15.4 高：21.0 底：18.2	内：にぶい黄褐色～灰黄褐色 外：赤灰～灰黄	径 1mm 以下の砂粒を含む	内：ハケメ・ケズリ・指 オサエ	ほぼ方形 縁部中央以下被焼による赤変
1号溝状遺構	16-16	7-7	罎	口：17.0 高：24.2 底：21.8	内：黄褐色～ 外：にぶい黄褐色～にぶい褐色	径 2mm 以下の砂粒を含む	内：ハケメ・ケズリ・指 オサエ	ほぼ方形 縁部中央以下被焼による赤変
1号溝状遺構	16-17	7-8 7-9	罎	口：17.0 高：21.0 底：20.8	内：にぶい黄褐色 外：灰黄	径 1mm 以下の砂粒を含む	内：ケズリ・ナデ 外：ハケ目	縁部外面縁部に 4 条の波状文 内外面底部にコグ付着
1号溝状遺構	17-18	7-10	二重 口罎	口：24.8 高：35.5 底：(30.6)	内：にぶい黄褐色 外：褐色	径 4mm 以下の砂粒をやや多く含む	内：ナデ・ハケメ・ケズリ 外：ハケメ・ナデ	辺は接合しない明一合体を合成 元したもので 縁部内面のハケメは単位不明
1号溝状遺構	17-19	7-11	罎	口：11.6 高：17.3	内：にぶい黄褐色～黄褐色～灰 外：にぶい黄褐色	径 1mm 以下の砂粒を少し含む	内：ミガキ・ハケメ・ナデ 外：ミガキ・ナデ	口縁部を一部欠くがほぼ方形 外面中位から底部にかけて黒炭 あり
1号溝状遺構	17-20	7-12	罎	口：13.0 高：17.3 底：25.8	内：にぶい黄褐色 外：にぶい黄褐色	径 5mm 以下の砂粒をわずかに含む 赤色土層を含む	内：ミガキ・ケズリ 外：ハケメ後ナデ・ミガキ	縁部内面のミガキはやや不明
1号溝状遺構	17-21	7-13	罎	口：11.7 高：13.6 底：11.7	内：にぶい黄褐色～灰黄褐色 外：にぶい黄褐色～褐色	径 1mm 以下の砂粒を含む	内：ケズリ・指オサエ・ ナデ	方形 縁部外面上位に黒炭
1号溝状遺構	17-22	7-14	小型 丸底 罎	口：12.0 高：11.2	内：にぶい黄褐色 外：にぶい黄褐色	径 2mm 以下の砂粒を含む	内：ケズリ・ナデ 外：ミガキ・ハケメ	ほぼ方形 口縁外面から内部は縁部が粗い 外面底部に黒炭あり
1号溝状遺構	17-23	7-15	小型 丸底 罎	口：10.1 高：8.6	内：にぶい黄褐色～灰 外：黄褐色	径 2mm 以下の砂粒を含む	内：ミガキ・ナデ 外：ハケメ	口縁部を一部欠くがほぼ方形
1号溝状遺構	17-24	8-1	小型 丸底 罎	口：12.6 高：7.2	内：黄褐色 外：黄褐色	径 7mm 以下の砂粒を含む 赤色土層を含む	内：ケズリ・ナデ 外：ハケメ・ナデ	底部に縁部を貫通する砂粒
1号溝状遺構	17-25	8-2	小型 丸底 罎	口：12.8 高：16.1	内：灰黄 外：灰黄	径 2mm 以下の砂粒を含む	内：ミガキ・ケズリ・ナデ 外：ハケメ・ナデ	底部に焼成後穿孔
1号溝状遺構	17-26	8-3	鉢	口：14.2 高：8.7	内：にぶい黄褐色 外：にぶい黄褐色	径 1mm 以下の砂粒を含む	内：ハケメ (工具ナデのみ) 外：粗いハケメ	底部に焼成前穿孔
1号溝状遺構	17-27	8-4	鉢	口：10.4 高：6.8 底：2.6	内：にぶい黄褐色～褐色 外：にぶい黄褐色～褐色	径 1mm 以下の砂粒を含む	内：工具ナデ 外：黒炭 (調整不明)	ほぼ方形 内外面に黒炭
1号溝状遺構	17-28	8-5	硜	口：11.4 高：3.7	内：黄褐色 外：黄褐色	径 2mm 以下の砂粒を含む	内：ナデ 外：ハケメ	ほぼ方形
1号溝状遺構	17-29	8-6	硜	口：12.4 高：3.8	内：にぶい黄褐色 外：にぶい黄褐色	径 3mm 以下の砂粒を含む	内：ミガキ・ナデ 外：ケズリ・ナデ	口縁内外面にヌス付着
1号溝状遺構	17-30	—	高坪 鉢	口：20.8 高：14.4 底：12.5	内：にぶい黄褐色 外：にぶい黄褐色	径 2mm 以下の砂粒をわずかに含む	内：ミガキ・シボリ 外：ハケ目後ナデ (調整 不明)	縁部縁部により調整不明 脚部に 1 対 2 か所の焼成後穿孔 あり
1号溝状遺構	17-31	8-8	高坪 鉢	口：11.5 高：8.6 底：9.4	内：にぶい黄褐色 外：黄褐色	径 3mm 以下の砂粒を含む 軽良	内：ハケメ・ミガキ 外：ミガキ・ナデ	ほぼ方形 縁部に 4 か所の焼成前穿孔
1号溝状遺構	17-32	8-9	高坪 鉢	口：11.5 高：8.6 底：9.4	内：にぶい黄褐色 外：黄褐色	径 3mm 以下の砂粒を含む 軽良	内：ハケメ・ミガキ 外：ミガキ	ほぼ方形 脚部に 4 か所の焼成前穿孔
1号溝状遺構	17-33	8-10	高坪 鉢	口：11.5 高：7.6 底：9.3	内：黄褐色 外：黄褐色	径 3mm 以下の砂粒を含む 軽良	内：ハケメ・ミガキ 外：ミガキ	ほぼ方形 脚部に 4 か所の焼成前穿孔
1号溝状遺構	17-34	8-11	台付 鉢	口：15.0 高：8.6 底：9.6	内：黄褐色 外：黄褐色	径 3mm 以下の砂粒を含む	内：ミガキ・ハケメ・指 オサエ	縁部内面に黒炭 縁部外面にコグ付着
1号溝状遺構	17-35	8-12	高坪 鉢	口：12.6 高：10.6 底：12.6	内：黄褐色 外：黄褐色	径 2mm 以下の砂粒を含む	内：ミガキ・ハケメ・シ ボリ	脚部に 4 か所の焼成前穿孔
1号溝状遺構	17-36	8-13	球形 陶器	口：33.0 高：17.3 底：25.8	内：にぶい黄褐色 外：にぶい黄褐色	径 5mm 以下の砂粒をやや多く含む 赤色土層を含む	内：ケズリ・ミガキ・ナ デ	縁部内面のミガキは粗雑で整 形時のヘラズリが残る

福屋内畑遺跡 出土石器観察表

遺構名	神代 番号	図面 番号	遺物	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
5号住居跡	11-33	8-14	石子	輝綠凝灰岩	5.6	12.1	0.55	48.8	穿孔は 3 か所
6号住居跡	11-32	8-15	石子	砂岩	10.5	10.0	9.2	1310	
7号住居跡	11-34	—	石子	不明	4.4	3.5	0.6	14.2	

福屋内畑遺跡 出土土製品観察表

遺構名	神代 番号	図面 番号	遺物	色調	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
3号住居跡 貼床下ピット	11-35	—	灰押	にぶい黄褐色～褐色	4.5	2.7	2.6	21.6	粘土精良 小さな黒点あり
1号溝状遺構土層	17-37	—	卵石状土製品	にぶい黄褐色～灰黄褐色	6.5	1.6	1.6	—	
1号溝状遺構土層	17-38	—	ボタノ状土製品	灰黄褐色	3.2	2.6	1.5	—	

图版



調査区全景（北西から）



調査区南半住居跡群（北から）

図版 2



1号住居跡土層（南東から）



1号住居跡完掘状況（北東から）



2号住居跡土層（北から）



2号住居跡完掘状況（南から）



3号住居跡土層（南から）



3号住居跡土層（東から）



3号住居跡土層（北から）



3号住居跡土層（西から）



3号住居跡完掘状況（南から）



4号住居跡土層（東から）



5号住居跡床面検出状況（西から）



5号住居跡遺物出土状況（北から）



6号住居跡完掘状況（北西から）



7号住居跡完掘状況（南から）



8号住居跡完掘状況（南東から）



9号住居跡完掘状況（北から）

図版 4



2号土坑土層 (西から)



3号土坑土層 (南西から)



3号土坑土層 (北西から)



3号土坑完掘状況 (北から)



4号土坑土層 (南西から)



5号土坑完掘状況 (南から)



1号溝状遺構遺物出土状況 (南西から)



1号溝状遺構完掘状況 (南西から)



图版 6





图版 8



報告書抄録

ふりがな	ふくどうちのはたいせき							
書名	福童内畑遺跡							
副書名								
巻次								
シリーズ名	小都市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第 356 集							
編著者名	龍孝明							
編集機関	小都市教育委員会							
所在地	〒 838-0198 福岡県小都市小郡 255 -1 Tel. 0942-72-2111							
発行年月日	2023 (令和 5) 年 3 月 31 日							
ふりがな	ふりがな	市町村 コード	遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地							
ふくどうち はたいせき	おごおりしふくどう	40216		33° 22'	130° 32'	2022.3.23 ～ 2022.5.2	165.00㎡	宅地造成
福童内畑遺跡	福岡県小都市福童			46°	48°			
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
福童内畑遺跡	集落跡 散布地	弥生 古墳	竪穴住居跡、土坑、 溝状遺構		弥生土器、土師器、石器			
要約	<p>当遺跡は、弥生時代中期から古墳時代前期にかけての集落跡である。特に弥生時代に遡る集落が確認されたことは、当時の生活圏の広がりを見るうえで注目すべき点である。</p> <p>遺構の残存状況から、地形は北側から南へと緩やかに傾斜していたと考えられる。北側は削平を受けているため不明であるが、東西および南側へと集落域は広がっていると考えられる。今後の調査に期待される。</p>							

福童内畑遺跡

小都市文化財調査報告書 第356集

2023年3月31日

発行 小都市教育委員会
福岡県小都市小郡255-1

出版 スマートファイブ
福岡県小都市小郡1572-9

